

家庭教育学級通信

2024年1月
八代市教育委員会 生涯学習課



新年あけましておめでとうございます。今年も八代市家庭教育学級事業をどうぞよろしく願いいたします。

さて、年末年始の休みはいかがでしたでしょうか。家族で長期の休みを過ごし、たくさん思い出ができたかと思います。

今回の家庭教育学級通信は、親子のコミュニケーションをテーマにしました。「あいさつ」と「子どもの話を聞くこと」について考えてみましょう。



【あいさつは大人が手本となりましょう】

皆さんは朝起きてから家族に「おはよう」と言っていますか。人は社会の中で、自分の居場所や存在を確認しながら生きています。その中でも、あいさつは、相手の存在を認め、自分は敵ではないということを簡単に示せる行為です。あいさつをされると社会の一員として存在しているという安心感が得られるのです。

では、あいさつができる子に育つにはどのようにすればいいでしょう。

① 親が楽しそうにあいさつをする

大人がやることを子どもはよく見ていますから、近所の人に会った時に「なんて言うんだっけ？」と子どもに言うのではなく、親が「おはようございます」と笑顔であいさつをするよう心掛けましょう。大人が笑顔で挨拶をしている姿を見せることで「こんな風に言えばいいんだ！」と子ども自身学ぶきっかけとなります。



② 最初に子どもの名前をつけてあいさつをする

「〇〇くん、おはよう」などのように、最初に名前をつけてあいさつをすることで、「あなたに向けてあいさつをしているんだよ」というメッセージ性が強くなります。名前をつけることで、あいさつがもっと「嬉しい」「幸せ」なものになります。まずは親が習慣づけて、子どももお友達に名前をつけてあいさつができるようになれば幸せの連鎖が生まれるはずですよ。

③ あいさつができなかったからといって怒らない

大人でもそうですが、子どもでもあいさつをしたくないほど感情が落ち込むこともあります。また、恥ずかしくて自分からあいさつできない性格の子もいます。そんなときに怒ってしまうのは逆効果。子どもの感情や性格を尊重しながらお互い気持ちよくあいさつができるといいですね。

④ ありがとうやごめんなさいも素直に伝える

「ありがとう」や「ごめんなさい」が自然と言えるかどうかは家庭環境によります。照れくさいですが、親子間、そして夫婦間でも何かしてもらったら「ありがとう」と伝え、相手を嫌な気持ちにさせてしまったら（意図していなくても）「ごめんなさい」と伝えましょう。何かしてもらうことが当たり前、悪気がないから謝らなくてもいいという考えの親もいますが、子どもは親をお手本にしますので、人としても普段からすぐに言葉が出るようになるといいですね。また、ただ口先だけで言うのではなく、相手の目を見て心をこめて言うようにしましょう。



【1日3分間子どもの話を聞いてみませんか】

ある家庭のお話です。

中学1年生のお兄ちゃんは思春期で無口。小学1年生の弟はお話大好きでまだまだお母さんに甘えたい年頃。お父さんは仕事が忙しく毎日子どもたちが寝た後に帰宅します。お母さんは帰宅後も忙しく夕飯を作ってますが、弟は構わず話しかけてきます。お母さんは「ちょっと待って!」「あとで!」とイライラ。すると不貞腐れてお母さんの言うことを全然聞かなくなりました。兄にも「早く食べて!」「ゲームはやめなさい!」とイライラ。兄は「お母さんいつもうるさいな~」と自分の部屋に籠ってしまいます。



お母さんは家事がひと段落し、皆が寝た後に、「なんで子どもたちを怒ってしまうんだろうとささいなことに腹を立ててしまう自分に悲しくなりました。

そんなときにお母さんは市で子育てのトークイベントが開催されることを知り、参加します。そこで知ったのが、親子のコミュニケーションのひとつは「1日3分間子どもの話を黙って聞く」ことでした。重要なのは黙って聞くということです。子どもが話している途中で「こう思うけどな」とか、「それは違うんじゃない」と言ってしまっははいけません。「うんうん」「そうなんだあ」「すごいね」と相槌を打つ程度にとどめて話を聞いてみましょう。

お母さんは早速実践してみました。「お母さん、お話を聞く練習をしたいから少し時間をくれないかな」と2人の兄弟に言ってみました。弟は喜んで「今日ね給食のカレーをおかわりしたんだ!それからえっとね~うんとね~・・・」と3分も経たないうちに話は終わってしまいましたが、お母さんが自分の話を聞いてくれるのがうれしくてにこにこしていました。その日、弟はお母さんの言うことを素直に聞いたそう。兄はというと、相変わらずゲームに夢中で話をしようとしてくれません。お母さんは困ってしまいましたが、いつか話をしてくれる日がきてくれると思い、その日は3分間の時間はとりませんでした。そんな日が4日続きます。



5日後、お母さんはいつものように3分間の時間をとりました。弟は学校で先生から褒められた話をしてくれました。兄はというと、弟がお母さんと楽しそうに話をしているのが段々と羨ましくなり、「僕も話を聞いて欲しいんだけど」と自分から言い、お父さんと一緒にゲームをしたいのに帰りが遅くてできずに寂しいことや、お母さんに宿題を見て欲しいのに忙しそうにしていて言えないことを話してくれました。

お母さんは申し訳なさと同様に、無口な兄がそんな悩みを抱えていることに愛おしさを感じました。お母さんは「話してくれてありがとう。お父さんもお母さんももっとあなたとの時間を作るようにするね。」と伝えると、兄は悩みがすっかりして安心した顔をしました。



子どもは話をするのが大好きです。話をしたくないのではなく、ちゃんと時間をとって聞いてくれなかったり、途中で親の意見を言われるのが嫌で話をしなくなります。短い時間ではありますが、ぜひ、3分間聞き役になり、子どもと豊かな時間を育んでみてください。

参考ウェブサイト

●千葉県白井市

<https://www.city.shiroyi.chiba.jp/kyoiku/ga>

●未来へいこーよ

<https://future.iko-yo.net/tips/17250/>

発行・編集:

八代市教育委員会 生涯学習課

問い合わせ:

0965-30-1115

syogai@city.yatsushiro.lg.jp

新しい風、生涯学習。



デザイン:石森 章太郎
生涯学習のマスコット「マナビィ」